

## 令和2年度 市長懇談会 会議録

【日 時】令和2年11月5日（火） 18時00分～19時30分

【場 所】周南市役所 多目的室

【テーマ】「女性が生き生きと活躍できる社会」について

【出席者】○市長

○TUボランティア部（徳山大学生のボランティアサークル）

○周南保護区保護司会（犯罪や非行を行った人の更生を支援する団体）

○山口子どもの文化研究会（周南市の文化を後世に残す活動をする団体）

○ともにSmile（男女共同参画を推進する団体）

○特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター（障害者等の支援を行う団体）

○シティネットワーク推進部長、シティネットワーク推進部次長、  
市民の声を聞く課長他

### 【会議録】

#### <市長>

この度の懇談会のテーマは、「女性が生き生きと活躍できる社会について」で、本市に暮らす女性の皆さまが、自分らしく、生き生きと活躍できるよう、また、本市が、男女の区別なく「住みやすく、より魅力のある街になる」ことを願って、このテーマとさせていただいた。

皆さまが日頃の活動を通じて、考えていらっしゃることや感じておられることなどを踏まえ、それぞれのご提案等について、ご参加の皆さま全員で、意見交換できればと思う。本日はただくご意見やご提案は、しっかりと参考にさせていただき、市政に反映してまいりたい。

#### <TUボランティア部>

学生団体、「がくまち」の活動を徳山大学生として継承し、TUボランティア部を設立した。地域活動への積極的な参加を通じて、地域の課題を発見し、解決する取り組みをしている。地域活動実績として、農作業ボランティアやナベヅルのねぐらの整備、徳山駅周辺のクリーン活動などの取り組みをしている。今後は、住みやすい街づくりのために、企業団体の皆さまと連携し、様々な企画に取り組んでいく。個人的には周南市の魅力を学生に伝えられる団体にしていきたいと思っている。

子育てしたくなる街にする為に、ママの経験と能力で地域を元気にしていくため、出産前、子育て中、子育て後のママたちに加入してもらい「ママサポ団体」を結成し、公式LINEなどを活用し、子育てに特化した「情報発信」をしていく。

周南市の子育てサークルが150個程度存在し、周南市としても、給付金や児童手当などを行っているが、課題として、ひとり親家庭の支援や子育て支援の人材不足、遊び場不足などがあると考えている。

提言するママサポ団体とは、この中でも、ひとり親家庭の支援、子育て支援の人材不足、この2点を解決するような活動を行うものにしていきたいと思っている。

誰でも入れる団体にし、買い物代行サービス、昔の遊びなどを子どもに伝承することなど、ママたちと若者がコミュニケーションをとることでストレス解消に繋がればと考えている。若者たちが、ママサポ団体を運営していければ、一番よいと思う。実行するために、勉強会を開き、若者たちの知識を広げていかなければならない。人が重要だと思う。周南市に存在している150の団体の繋がりがなくて、点と点の状態なので、ママサポ団体が行政とつながることで、150の団体も巻き込んで、活動を行えたらと思う。

「女性総活躍バンク」を設立し、女性の意見、能力、アイデアを登録し、女性の発想をまちづくりに活用していく。また、まちづくりや新事業創発など、産官学も参加しアンケートや会議、ワークショップなどを定期的で開催する。また、課題やテーマを呼びかけ、それに対して女性が参画することもできる。

女性総活躍バンクの案は、オンラインでのアンケートや意見を登録して、意見を分類別に分け、意見が重なるような人々をコミュニティで分け、イベントを実行していきたい。設立するメリットは、同じ考えや目標を持つ女性でコミュニティを作ることによって楽しみや目標ができ、生き生きとした活動ができる。2点目に女性総活躍バンクを起こすことで、コミュニティ自体はあっても、バラバラの状態で繋がっていない団体を、女性総活躍バンクが中心になることでそこに枝分かれさせ、コミュニティ同士の繋がりも大きくなり、女性のやりたい実行したいことを、女性が主体になって統括することができる。

そして、サポートする私たち若者も一緒になって、成長しながら、最終的に女性自体がイベントを開催していければ一番いいのかなと思う。

大学や金融機関などと連携し、経済知識を女性が持つことで各家庭単位が自立できる社会を創造していくために、親子での勉強会はもちろんのこと、小中学生の頃から「お金のなし」などを授業に組み込む。

2020年に高校の家庭科で資産運用などについての授業が始まる。周南市には西京銀行や徳山大学の経済学部があるので、専門家を中心として、勉強会の開催やお金の話を授業に取り組みたらと思っている。子ども食堂などで、学生が中心となって、参加しながら取り組むことができるのではないかなと思う。

親世代や、子どももお金に関する機会に触れることで、将来、親になった時に子どもにも教えることができ、みんなが幸せになれるのではないかなと思う。

私も実際株や資産運用などを勉強しているが、最初はお金について怖いイメージがあったが、勉強することで、自分の幸せにつながるがことが分かったのでこの提案をしている。

私たちが提案した1番から3番は全て繋がることだが、女性が活躍することは、男性も活躍することであり、一人ひとりがお互いを慮ることが大切だと思う。

<市長>

先日は、八代の鶴のネグラづくりや、中心市街地の清掃活動のボランティアに参加いただき、ありがとうございました。

若い人たちから色々なことを教えてもらったが、一つキーワードとして繋がるということが、皆さまが言われていることかなと思った。

周南市でも色々な取り組みをしているが、「はぴはぐ」「はぴチャレ」などがある。後ほど紹介しながら、話を進めていきたい。資産運用に関しても面白いワードが出てきた。

皆さまの意見を聞きながら、輪の中に、若い人たちの輪が入ってくれるのを楽しみにしている。

<周南保護区保護司会>

保護司は法務大臣が委嘱した更生保護のボランティアで、保護司会は非行や犯罪をした人の立ち直りを助けるとともに、犯罪予防に取り組んで地域の安心安全に貢献しようと活動している団体である。平成28年に再犯防止法が制定され、本市においても、今年度中に再犯防止計画ができると聞いている。これからも市と協力して再犯防止に努めていきたいと思う。

周南市の保護司定数は73名で、現在63名である。12月1日付で3名増となるが、まだまだ定数割れで適任者を探している状況である。女性保護司は63名中、19名で全体の30%程度。昔に比べると女性が随分増えており、執行部にも女性が占める割合は増えてきているが、まだまだ女性の活躍できる場所が多いとは言えない。これから、新任女性保護司を増やしていきたいと考えている。

女性一人一人が、個性を生かし、意欲的に社会参画できるためには家庭、職場、地域、それぞれに支え合う環境づくり（自助・互助・公助）が必要となる。そこで意識改革を推進するために職場でのパワハラ・セクハラを含む研修を年1回は実施するように要請できないか。

研修は、マンネリ化になっては意味がない。同じような内容を繰り返しやったのでは、聞き流してしまう。研修内容は15分でいいので、会社の社内LANを利用したり、閲覧コーナーなどで、啓発DVDを流して自分の好きな時間に見れるようにしたり、事例を出してそれについて自分の考えを書き込んでいくなど、また、KJ法やワークショップなどで意見を出していく方法も有効だと思う。色々な事例を示すと、会社も取り組みやすいと思う。

女性の保護司として活動するためには、地域社会全体の理解・協力が必要なばかりでなく、家族の理解・協力が必要不可欠である。場合によっては、夜遅く対応しなければならないことや、急を要することもある。家事、育児がおろそかになることも度々あった。「女だから家事育児をするのは当たり前」「そんなことは男に任せておけばいい」というようなそんな考えがあれば、女性の社会参画はできない。男女参画の意識改革を進めるために、このような提言をさせていただいた。

<市長>

周南保護区保護司会については、罪を犯してしまった人や、非行少年の更生、社会復帰をサポートし、犯罪予防活動など、重要な仕事に携わっていただきありがとうございます。時々、会議にも参加させていただいたりしながら、皆さまの活動をしっかりと見させていただいている。

保護司会の活動を通じて、今まで職場のパワハラやセクハラの現状は耳にされたことはあるか。

<周南保護区保護司会>

私は今まで、自分が担当した中では、女性や少年、男性もいたが、その中ではないが、やはり家庭環境が随分複雑な家庭については、非行に走りやすい傾向がある。それを支え

るのはやはり家庭で、その家庭がしっかり子どもと一緒に更生していく気持ちになった時に、早く立ち直りができるが、親が見放してしまった場合は立ち直りができない。そういったことで、パワハラ、セクハラはあるかもしれない。男性が女性に対して暴力を振るうのを担当したがことがあるが、自分の思いがうまくコントロールできず、アンダーコントロールというが、自分の怒りが抑えきれない場合、女性に当たったり、弱い者に手をあげてしまうという事例はあった。

<市長>

女性が活躍するには、まず、安心安全な暮らしの環境が不可欠だと思う。これからも頑張っていたきたい。

<周南保護区保護司会>

暴力団体や、そういった繋がりがある対象者を受け持った時に、こちらも身の危険を感じたりする場合がある。女性だから、結構その辺は相手もなめてかかるところもある。その場合、女性であっても、母親的な包み方をする。観察主任官、保護主任官は父親的な立場で、両者がそれぞれの立場でやっている。女性でも男性のようにやれということではなく、女性は女性の良さを活かしていくことができると思う。今頃は、対象者について二人体制がとれるようになってきているので、立ち直りが早くなっていくのではないかと思う。

<市長>

貴重な話を聞かせていただきありがとうございます。

<山口子どもの文化研究会>

この会は、創立27周年になる。会は私の母が創立したが、転勤族だった母が大都市部に比べると周南市は子どもの文化的な活動が遅れているように感じ、子どもたちに色々と文化を伝えていくような活動をしたという思いで、約50名で発足した。色々な講師を招き、自分たちも勉強しながら今に至っている。周南地域や山口県に関する紙芝居をたくさん制作している。ほとんど、母が脚本し、その中には八代の鶴や人間魚雷回天を題材にした紙芝居もある。小学校だけでなく、大人や高齢者の施設などでも、そういうものを伝える活動を年間150回くらいしていたが、今年はこのコロナ禍で活動ができない状態である。今は自分たちが勉強しようということで、「さるかに合戦」の本を持ち寄って、各地域の違いなど違いを比べる勉強会をしている。

子どもの文化研究会と名前はついているが、自分たちが周南や山口県の皆さまに色々な文化を伝えるお手伝いができたらいいということで活動している。昨年、「コープの女性生き生き大賞の優秀賞（朝日新聞社賞）をいただいた。西京銀行から助成金をいただいて活動を続けている。今年の5月にアメリカのサンフランシスコ州サクラメントの小学校や図書館で日本の紙芝居、周南の回天などを伝える予定を立てたが、中止になった。今後、実現しようと思っている。市長も会員になっていただいております、文化協会の15周年の時は、市長が作った絵本を読み聞かせをしていただき、ありがとうございます。

お話会などを通して、色々な活動をしているが、女性目線というよりは、男性の会員もいるので、絵本や紙芝居を通して、学べるコミュニケーションや文化はとても大切なツールだと思っている。その中で、女性ならではの心遣いで、コミュニケーションをとり、思いやりや感謝の気持ちを繋げることを目指してこれからも活動をしていきたいと思っています。

る。男女共同参画も大切だが、男女がお互いを尊重し合うことが、大切なことだと思っている。大人でも紙芝居、絵本に、触れ合っていない方もたくさんいらっしゃると思うので、こどもの文化研究会では活動を通じてたくさんの方が学ぶので、大人も子ども目線になって絵本を見ていただければと思う。

<市長>

長きにわたり活動されていることを存じ上げているが、郷土の昔話や歴史人物等の紙芝居を作成され、読み聞かせ活動や、また著名な作家を招いての研修会や、お話を開催されている。

また、市の事業にもたくさんご協力いただきありがとうございます。活動をたくさんされているが、長く活動されている中で、今と昔で聞き手の子どもの意識の違いはあるか。

<山口子どもの文化研究会>

変わっていない。幼稚園、小学校、様々なところを回っているが、どの子ども目を輝かせて、反応してくれていつもびっくりしている。落ち着きがないなと感じることもあるが、紙芝居やお話をしているときの子どもたちは誰も騒がないし、本当によく聞いてくれて、全然変わっていない。

<市長>

今年からの教育大綱の中で、子どもの「生きる力」を「生き抜く力」にかえさせてもらった。やはり子どもが今からたくましく生きていっていただかなければならないと思っているが、どういうところに重点を置いて教育していけば社会の中で強く生き抜いていくことができると思うか。

<山口子どもの文化研究会>

郷土のことを子どもだけでなく、市民の皆さんに学んでいただきたいと思う。周南市には多くの偉人がいる。浅田栄次、弘中又一、矢嶋作郎など、周南市の素晴らしい偉人について調べてみようと思う。児玉源太郎にしても知らないことが多い。そういうことを知ることによって、郷土に興味を持ってもらいたいと思っている。

<市長>

素晴らしい意見をありがとうございます。私もシビックプライドを醸成していくことは大切なことだと思う。また、彼らの紙芝居も作って欲しい。楽しみにしている。

<ともにSmile>

平成15年4月21日に周南市が誕生し、同年11月に第1回周南市男女共同参画のフォーラムが開催され、その時の実行委員長を務めさせていただいた。その後徳山、熊毛、鹿野を巡回したフォーラムの実行委員の有志13名が周南市男女共同参画市民ネットワークとして、平成17年9月に「すまいるネット周南」を立ち上げた。平成19年には山口県男女共同参画フォーラムの徳山大学開催を提案し、山口県、周南市の担当課、大学の学生の皆さまとともに活動し成功に導いた。平成24年11月には、徳山大学のポプラ祭で周南市男女共同参画フォーラムを、山口県で初の女性部長になられた、今村孝子先生（仁保病院の医師）をお招きして開催した。その時の「一人の百歩より百人の一步」という言葉は強く心に残っている。

平成26年には、パネルディスカッションを開催している。平成28、29年には男女

共同参画フォーラムで「心で感じる家族と命」というドキュメンタリー映画を新南陽の学び交流プラザで託児付きで上映させていただき、多くの方から好評をいただいた。

3年前に「ともにSmile」に名称変更し、15周年を迎えている。現在会員は8名で、旧徳山、新南陽、熊毛、鹿野それぞれの地域の情報交換の場にもなっている。活動最大の目的は、男女共同参画活動により、行政と連携し、活力のある豊かで住みよいまちづくりへの貢献である。周南市の男女共同参画推進条例の基本的な考え方として、男女の人権の尊重、能力の発揮、平等で対等な参画、家庭生活と他の活動の両立が明記されている。

男女共同参画の視点からこれからの女性の活躍への応援に尽力していきたいと思っている。本日参加の皆さまからしっかり学ばせていただきたい。

周南市で初めての女性市長をお迎えし、市民も期待感があると思う。山口県19市町で女性市長は現在一人である。県内はもちろん、県外からも注目されていると思う。ここまでこられた道のりは、陰しく多大なご苦勞があったのではと察する。市長は、県議会議員で活動された経験と女性の視点を生かして、市民に寄り添い、市民の声を聞き、市民と分かり合える市政の実現に努められることを表明されている。テーマに関する主な提言内容には私共の女性メンバーの意見が大きく反映されている。

提言内容の内容全般、市長が大変多忙の中、生き生きとご活躍されることで、女性が元気になり、女性の声が反映されやすくなり、生きやすい周南市の実現を確信するものである。

「一人の百歩より百人の一步」ひとりひとりの人権の尊重を地道に発信、啓発を続けることが重要である。女性の生き生きとした活躍の為には、性差を超えた人権の理解が大切である。特に相談機関のスタッフの充実は、女性の活躍に欠かせない。

相談は、家庭でのDVや職場でのパワハラなど多岐にわたり専門的である。女性相談は専門技能のいる分野で、研修で技術や感覚を磨いていかねばならない領域で、国レベルでは女性相談員を専門家にとり入れる流れもある。周南市もいち早く取り組んでほしいところである。周南市の取り組みも聞きたいと思っている。

行政組織またコミュニティ組織は、女性が生き生きと活躍できるものになっているだろうか。市長自ら、各総合支所、支所を巡回し、コミュニティの役員のみならず、市民と語り合うことが、女性の元気につながる。広い周南、加えてコロナ禍、子育て中の家族、家からなかなか出られない市民の声が聞けるようにオンラインの活用、システムの構築が必要である。今回の時間設定も女性には特に出席が難しい時間帯である。

オンラインの活用については、今年に出された女性活躍加速のための重点方針2020で、テレワーク導入に向けた支援の中で、地方創生実現に向けて、ICTを活用し、地域課題解決に資するテレワーク環境のための、サテライトオフィスなどを整備する、地方公共団体等に対し、必要な経費の補助などを実施するとある。コロナ禍で仕事のやり方が大きく変わって、資料では、テレワークの導入は、30人以上の企業で45%、300人以上の企業では90%になっているそうだ。

周南市で初めての女性市長が誕生し、市長が生き生きと活躍されるよう願うものだ。重責を担い、日々ご多忙とは存じるが、日常の気づき、市の魅力の発見、豊かな交流を引き続き、広報やSNS等の手の平でみられるツールを活用し市内外に発信することで、周南

市の魅力が更にアップすると思う。

政府は5年前、女性活躍推進法を制定し、民間企業の労働者が301人以上の企業は、女性の活躍状況の把握と分析、それに応じた計画の作成や実行、女性の活躍状況の公表を義務付けている。300人以下は努力義務である。周南市の企業で公表されている女性の活躍状況を把握し、周南市の風土を生かした取り組みや、企業間の連携が考えられる。是非、企業の女性の活躍状況を知りたいと思っている。

女性が生き生きと活躍できる社会については、地方自治体の先駆的な取り組みを支援している政府も、地方自治体と連携したモデル事業を実施するなど、実証的な調査研究をする。女性市長で周南市が先駆的な取り組みを行い、自治体のモデルとなれば、これが全国的に広がり大きな魅力となる。

日本が発展するためには、女性の働き手と能力を生かしていかないと、未来はないということで、政府は色々な法の整備を打ち出している。是非、周南市からも色々と発信していただきたい。我々も一緒に頑張っていていく。よろしく願います。

<市長>

男女共同参画の団体を立ち上げられ、長い間啓発活動などを積極的に取り組んでいただいている。ありがとうございます。以前行われた、男女共同参画フォーラムでは中心となって活躍していただき、感謝申し上げます。全国では女性市長が30人くらい居る。それぞれ素敵な人たちで、輝いておられる。それぞれが、モデルになるような活動をされていると思う。

私は、目と目を合わせて話すのが好きなので、今年度、支所も回り、お話をさせていただいた。リモート会議もこれまで、いくつか行ったが、できればこういう形がいいと思って今日の懇談会は人数が少なくなってもいいから、形を変えて対面でやりましょうと話をさせていただいた。

男女共同参画に参画されている男性から見て、こうしたらもっと女性が輝けるのになという提案はあるか。

<ともにSmile>

やはり女性がまず、自分から積極的に出ていく、自分の思いをしっかりと伝えていただくことが大事である。女性の意識も大事だが、男性の意識もちゃんと変えていかなければならないと思う。

<特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター>

当センターは、(株)カン喜、古くは(株)八木ノースイの頃から障害者雇用を積極的に行っており、障害者の方が地域で活躍できるように、NPO法人を設立し、しっかりサポートしていこうということで、第一よろこび、第二よろこび、第三よろこびの3つの施設を運営している。障害者就労継続支援施設A型として、様々な障害のある方と雇用契約を結び、長く働き続けられるように様々なサポートをしている。主な就労支援プログラムとして、お弁当や総菜づくり、牡蠣の殻にグラタンを入れて販売するなど、農産物生産、販売などを行っている。また、道の駅「ソレーネ」でテナント「ぴーまん」を行っている。

色々な職種の働く女性を集めた異業種交流会を開催してみてもどうか。普段の生活や職場での活動を通して培ったアイデアの交換や、社会生活におけるニーズの共感ができれば、

新しい働き方や在り方が見つかると、活躍の場が広がると思う。もしかすると、日頃の困りごとが解決できるかもしれない。

実際福祉の研修に参加する際、福祉でも介護など多岐の分野に分かれており、交流をさせてもらったときに新しいアイデアが出てきたので、福祉以外の方とつながることができれば、もっといいアイデアが出てきて、みんなが笑顔になれる。みんなが活躍できるのではないかと思う。

まだまだ企業でも女性が育児休暇や介護休暇を気兼ねなく取ることができていない現状があるようだ。企業側からすると色々と難しい部分があるのかもしれないが、どうしても休暇を取らなければいけない際、制度が分からず、該当者の方が言ってもいいのか悩まなくても、気軽に企業に言えるような感じになればいいと思う。最近では、女性だけでなく、男性が家庭に入り手伝えることもあるこの世の中で、男性も女性も育児休暇・介護休暇を気軽にとれる社会になって欲しい。

育児休暇を取得した場合に、職場に復帰する際、不安を軽減できる機会や研修など、業種に関係なくあればいいのではないかと思う。

<市長>

いつも福祉行政の推進に寄与していただき、ありがとうございます。よろこびの里や、カン喜のことも存じている。皆さまの活力には頭が下がる思いである。

異業種交流の場というのに参加されたことはあるか。

<特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター>

商工会議所の交流会に参加したことがある。

<市長>

どういう交流が図られたいか。

<特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター>

女性の中では自信がない方もいらっしゃると思う。復職する悩みを、共感することができたり、相談ができればいいと思う。

<市長>

職場での、女性と男性の割合はどのようになっているのか。

<特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター>

職員は、女性が19名、男性が10名いる。

<市長>

その中で、育児休暇や介護休暇など取得しやすいか。

<特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター>

育児がいったん終わっている方が多いので、対象になる者はあまりいない。家庭の事情があれば、お互いが仕事をカバーできる環境を整えている。

<市長>

5団体の提言を伺った。他の団体の意見等で聞きたいことなどはないか。

無いようなので、市が行っている施策もお話することも大切だと思う。ご提言に対して、市が行っていることを少し説明させていただく。



<市民の声を聞く課長>

- ・「はぴはぐ」(市が行っている子育ての情報サービスなどのアプリ)
- ・「はぴチャレ」(周南市の仕事の情報や、楽しい学びと交流セミナーなどを紹介をする女性応援サイト)
- ・市民活動支援センター

について説明

<市長>

大学生の皆さまも、若い力で仕掛けづくりをしていただきたい。これまでもやっていたもの、これから取り組んでいただけるもの、お金の話など、小中学校の授業で取り組んでいるものもあるが、ご提案があったように、家庭など身近なところから、資産運用などの話をしていただきたいと思うので、担当課に話をし、そういう機会を作っていきたい。ぜひ、若い力を市政に貸していただきたいと思う。

周南保護区保護司会の職場での研修について、少し説明させていただく。

<市民の声を聞く課長>

- ・周南市の人権教育について
- ・市内の企業82社が加入する「周南市企業職場人権教育連絡協議会」

について説明

<市長>

パワハラ、セクハラの啓発につながる研修はもちろん、1人1人の人権が尊重されるような取り組みをしないといけないと思う。研修などをやっているが、足りないことは皆さまからも言っていただき、積極的に進めていきたい。

<周南保護区保護司会>

82の企業が参加しているということだが、参加者は企業から何名出席するよう、要請して行っているのか。参加者は同じ顔触れが参加しているのか、それとも新しい人が参加しているのか。

<市民の声を聞く課長>

主管課ではないので、詳しい実施方法は分かりかねるが、企業の代表者の方に参加いただき、労働基準監督署から講師を招き、研修を行ったと聞いている。

<市長>

職場や地域が、それぞれが支えあう環境づくりを社会全体で取り組むことが重要だと思う。先ほど話があった、パワハラやセクハラをなくして、女性が活躍できる社会にしていきたいと思っている。

山口子どもの文化研究会からは、男女共同参画も大切だが、男女がお互いを尊重し合うことが大切だとあったが、これは思いやりや、感謝の気持ちを繋げることを目指していらっしゃる団体ならではの提言だと思う。

<市民の声を聞く課長>

- ・家庭地域学校における読書活動の推進
- ・ブックスタート事業(母子健康推進委員さんによる家庭訪問し本のプレゼントを行う)
- ・お話し会、親子ライブラリーの開催、読み聞かせ活動の支援

- ・学校図書館の充実、子どもの読書活動に係る団体との連携
- ・読書の日や読書週間の取組

について説明

<市長>

子どもの成長、教育には、学校教育だけではなく、皆さまのような団体の力、地域の力など社会全体で連携することが本当に大切だと思う。今後も、皆さまの力をお借りして、子どもたちを育てていきたいと思っている。

<山口子どもの文化研究会>

実は学校よりも、高齢者施設を訪問する方が多い。その時に、地域の昔話をやっている時、昔を思い出して涙するお年寄りもいらっしゃる。大人から子どもまで年齢問わず、私たちの活動はやっていきたい。

<市長>

ともにSmileさんの提言で、相談機関のスタッフの充実は女性の活躍に欠かせない。市の体制を説明させていただく。

<市民の声を聞く課長>

- ・子ども子育て相談センターを設置、相談体制
- ・令和元年度相談件数

について説明

<市長>

オンラインの活用のご提案、開催の時間帯についてのご意見があった。オンラインの会議も有効であるが、自分は働く女性と直接出会ってお話を伺いたいと思いこの時間が選ばせてもらった。社会に出て働いていらっしゃる女性のことも考え、仕事が終わってからの時間を選ばせてもらった。また、今後はそれぞれのテーマに沿って、懇談会の開催時間は決めていきたいと思う。できればコロナ禍が収まって、たくさん的人数で開催したいと思っている。情報発信について、説明させていただく。

<市民の声を聞く課長>

広報、市のホームページ、SNS、ケーブルテレビでの市政の情報番組、しゅうなんメール、記者会見、デジタルサイネージなど、市政の情報発信について説明

<市長>

周南市でも、女性活躍推進法に関する取り組みはしっかり進めているところである。男女共同参画の視点、子育ての視点、その他がある。男女共同参画の視点で言えば、男女が社会の対等なパートナーとしてあらゆる分野に参画し、性別に係わりなく、その個性と能力を発揮することができる、男女共同参画の推進のために、色々な啓発活動に取り組んでいる。

子育ての視点でいうと、みんなで子育て応援プロジェクトを掲げ、子どもの明るい未来の支援の施策を展開している。その他、未就業女性と企業との交流会、座談会等の実施によるキャリア形成、就職支援を行う女性の雇用マッチング事業にも取り組んでいる。

市はあらゆる意識啓発、情報発信、子育てしたくなる環境整備や体制づくりに取り組んでいるところである。

<ともにSmile>

男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などがあるが、2020は女性の管理職を30%にするということを掲げていたが、実際は14%程度で目標も取り下げられている。そして、昨年の世界経済フォーラムの153か国の中で、男女平等指数は、日本は121位だった。これでは世界から信用を失う。国としても色々な法整備はしているが、地域の自治体から先駆的な考えを出して、国がそれを支援し、一緒になってやっていかないとできないと思う。

どうしても、女性を取り巻く環境は厳しい。家事や育児や介護の負担も大きい。働く女性は増加しているが、56%は非正規労働者で、貧困と隣り合わせである。周南市は先頭に立ってチャンスを生かして、国との関係や、女性の育成の強化を行い、女性の登用を積極的に登用していただきたい。

<市長>

女性をいきなり部長など管理職にすることはできないが、市職員の課長級以上の女性の割合が8.3%だったのが、この4月に10.7%になった。しっかり人材育成をしながら管理職にあげていきたい。たくさんの女性が頑張ってくれている。

<ともにSmile>

男女雇用機会均等法が法整備されているが、来年の1月から育児休暇と介護休暇の取得がこれまでの半日単位から1時間単位になり、制度を使った事業所には国から給付金が出ると聞いている。有効に活用していく必要があると思う。

<市長>

特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センターの皆さまから、異業種交流会を開催してはいかがかと提言をいただいた。周南市では、周南パラボラ会、徳山商工会議所の女性会、新南陽商工会議所の女性会、西京富女子会、労働組合など色々な民間の取り組みがなされている。いずれも貴重な場と思っているので、出かけてみて欲しい。私もできる限り出席したいと思っているし、市の職員にも参加するよう声掛けしているので、是非皆さまも参加してみて欲しい。

介護休暇や育児休業が気軽に取れるようになって欲しいと意見をいただいたが、社会では、なかなか難しいことかもしれない。市役所の状況を説明する。

<市民の声を聞く課長>

- ・子育て応援や、女性活躍推進法に基づく、周南市特定事業主行動計画に基づき取り組みが行われていること

- ・市職員の休暇等の状況

について説明

<市長>

啓発活動していくことがとても大事だと思っている。啓発を進めていくことで、育児休業や介護休暇の取得の促進に繋がるのかなと思う。そうすれば、女性の活躍しやすい環境が作れるのかなと思う。色々な事情を抱える女性が、安心して働ける場所を見つけられるような情報提供をしていかななくてはならないと思っている。

休暇を取りたいけど取りにくい環境が現在の状況かもしれないので、市の方でもしっか

り啓発していきたいと思う。ご提案ありがとうございました。

#### <TUボランティア部>

ともにSmileさんの話で男性の理解が足りないという話は、確かにそうだと思う。女性に対する理解を与える場は当然必要だが、男性の理解力を上げるために、例えば家事であったり、家庭内で協力できることを伝えていくことは重要だと感じた。

色々な団体の意見を聞いて、新たな視点を得られた。若い力、若いなりの目線で、女性が生き生きと活躍できる社会を考えないといけないと思った。山口子どもの文化研究会さんが、郷土のことを学んで欲しいとおっしゃたことを聞いて、私たちは地元ではないが、ここで暮らす身として、大人も子どもも楽しく郷土について学ぶことも大切なことだと改めて思った。私たちの提言させてもらった中で、小中学生など小さい頃から多くの経験を積んでいくことはとても大切だと思った。

#### <周南保護区保護司会>

私事になるが、17年前、県の職員で女性の管理職が少ない時期に管理職になった。県内で、新任の管理職は居住地とは離れた場所に異動となるが、男性の場合は単身赴任でいくような状況だった。私が初めての管理職になったときは、45分くらい運転して通えるところが赴任先だった。ある男性管理職から女性は優遇されていると言われた。他の男性は、優遇ではない、これは配慮だと言われた。まだまだ男女平等と言いながら、配慮という部分が必要。女性が管理職になるには、仕組みや組織の配慮が必要だと思った。

#### <市長>

先ほど、「慮る」という言葉が出たが、相手の立場に立って考えるのが必要。お互いが慮れば、性差関係なく、みんながお互いを尊重しあい、いい社会を構成できるのではないかと思った。

皆さまの日頃の活動を通して感じていらっしゃること、また、ご意見などを伺い、多くのことに気付かせていただき、大変有意義な懇談会となった。社会全体を変えていくための、意識啓発や情報発信の重要性、若い世代が働きやすい、子育てをしたくなる環境整備や体制づくり、幼児期からの教育や、多様な体験、豊かな心の育成が、これからの社会を生き抜く力を育むことなど、女性が生き生きと活躍できるまちづくりに必要な、モノや視点について改めて考えさせられた。

また、多くの方が様々な場所につながること、これまでの意識や社会を変えることができるかと改めて感じた。市では、様々な事業に取り組んでいるが、皆さまからいただいた、ご意見等を取り入れながら事業を進めてまいる。

私は、市政に携わる市役所職員の意識を変えたいと思い、この4月の人事異動では、女性の管理職等への登用を進めた。割合は低いですが皆、頑張ってくれている。管理職になると責任は重くなり、家庭との両立が肝心となってくる。今後も年齢や男女の区別なく、頑張る職員の登用も更に進めてまいりたいと考えている。

引き続きご支援、ご協力のほどどうぞよろしくお願いしたい。この懇談会を縁に、本日参加の皆さまが、今後もお互いにつながり、活動の幅を今以上に広げていただけたら嬉しく思う。